

建築研究所ニュース



令和6年2月14日

令和6年能登半島地震による木造建築物の被害調査報告（速報）をHPで公開

令和6年能登半島地震により大きな被害を受けた木造建築物について、建築研究所、国土技術政策総合研究所が実施した調査の報告を建築研究所のホームページに掲載します。

これらの調査は、令和6年能登半島地震による木造建築物の被害の状況を把握することを目的としております。

主体：（国研）建築研究所、国土技術政策総合研究所

対象：石川県輪島市、珠洲市、穴水町、能登町、七尾市、志賀町の木造建築物等

被害の概要

過去の地震被害と同様に建築年代が古い木造建築物が倒壊または大破していた。特に輪島市河井町、同鳳至町、同門前町門前、同道下、珠洲市正院町正院、同宝立町鶴飼、穴水町中心市街地（大町）の被害が多く、かつ甚大であった。いずれも比較的古い木造建築物が多く存在する地域であった。

津波被害地域の木造建築物について、建築年代が古い木造建築物が地震で大きく損傷し、津波の波力によってさらに被害が拡大したと考えられる。

本資料は、建研ホームページ及び国総研ホームページで公開しています。

ダウンロード先URL：

https://www.kenken.go.jp/japanese/contents/topics/2023/R6_2_14_2_noto.pdf

（内容の問い合わせ先）

国立研究開発法人 建築研究所

所属 材料研究グループ

氏名 槌本 敬大

電話 029-864-6610

E-mail tutti@kenken.go.jp